

シリカゲル

[概要]

乾燥剤の中では最も多く用いられているため、乾燥剤がすべてシリカゲルであると思っている人がいる。透明または青色の粒状で、子供の興味をそそるので、誤食事故も多い。しかし、医薬品中に封入されている乾燥剤の中にはシリカゲルを主成分とし、コーティングされた錠剤型のものもある。

[毒性]

成人経口致死量 15 g/kg 以上

吸収されないため、全身毒性はほとんどみられず、無毒物質としてリストされている(2)

[症状]

大量経口摂取しても、ほとんど毒性症状を認めないが、まれに口腔または食道粘膜付着によりびらんをみることあり

[処置]

家庭で可能な処置

ジュースなど十分な水分を与える

医療機関での処置

大量摂取の場合でも、単なる異物として処置

(異物は3日以内に80%が糞中に自然排泄されるといわれているが、場合によっては下剤を与えて排泄を促進)

[確認事項]

- 1)商品名、成分：乾燥剤の総称としてシリカゲルということが多いため、商品名と成分を確認(生石灰、塩化カルシウムとの混同に注意) 当センターが調査した限りでは医薬品中に封入されている乾燥剤はシリカゲルまたは塩化カルシウムがほとんどである
- 2)摂取量：少量か、多量に飲んだのか。青色粒かどうか(コバルト塩を含有する青色粒を大量に摂取した場合にはコバルト塩による粘膜刺激作用あり)
- 3)患者の状態：口の中に付着しているか。口内に変化はないか

[情報提供時の要点]

- 1)内容物が透明な粒で青色粒が混入している場合には、成分が不明でもシリカゲルと考えてもよい
- 2)少量で変化がない場合には水または牛乳を適量与え、しばらく様子を見る
- 3)口腔粘膜に発赤がみられるときは、念のため受診を指示

[体内動態]

腸管吸収はほとんどなし

[中毒学的薬理作用]

局所粘膜の軽度脱水作用・・・微量(約 5%)混在のコバルト塩(青色粒)に局所刺激作用

[治療上の注意点]

- 1)小児で大腸粘膜に付着したためと思われる疫痢様下痢をきたした症例の報告あり
- 2)目に入った場合は十分に水で洗浄

[その他]

化学式、分子量、溶解性：SiO₂・H₂O、78.1、水不溶

用途：吸湿による品質低下防止のため、医薬品、接着剤、インスタント食品などの包装品として使用

シリカゲル複合乾燥剤

活性炭シリカゲル：シリカアルミナ

(アルミナ、Al₂O₃ 含有シリカゲル製品

・・・ラット経口 LD₅₀ 値 15g/kg 以上)

[参考文献]

- (1)Clinical Toxicology of Commercial Products (1984)
- (2)Poisonindex(1988)